

【内容項目・「指導の要点」と教材関連表】

目次

● A 主として自分自身に関すること

(小) 善悪の判断, 自律, 自由と責任	(中) 自主, 自律, 自由と責任	10
(小) 正直, 誠実	(中) 自主, 自律, 自由と責任	12
(小) 節度, 節制	(中) 節度, 節制	14
(小) 個性の伸長	(中) 向上心, 個性の伸長	16
(小) 希望と勇気, 努力と強い意志	(中) 希望と勇気, 克己と強い意志	18
(小) 真理の探究	(中) 真理の探究, 創造	20

● B 主として人との関わりに関すること

(小) 親切, 思いやり	(中) 思いやり, 感謝	22
(小) 感謝	(中) 思いやり, 感謝	24
(小) 礼儀	(中) 礼儀	26
(小) 友情, 信頼	(中) 友情, 信頼	28
(小) 相互理解, 寛容	(中) 相互理解, 寛容	30

● C 主として集団や社会との関わりに関すること

(小) 規則の尊重	(中) 遵法精神, 公德心	32
(小) 公正, 公平, 社会正義	(中) 公正, 公平, 社会正義	34
(小) 勤労, 公共の精神	(中) 社会参画, 公共の精神	36
(小) 勤労, 公共の精神	(中) 勤労	38
(小) 家族愛, 家庭生活の充実	(中) 家族愛, 家庭生活の充実	40
(小) よりよい学校生活, 集団生活の充実	(中) よりよい学校生活, 集団生活の充実	42
(小) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	(中) 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	44
(小) 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	(中) 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	46
(小) 国際理解, 国際親善	(中) 国際理解, 国際貢献	48

● D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

(小) 生命の尊さ	(中) 生命の尊さ	50
(小) 自然愛護	(中) 自然愛護	52
(小) 感動, 畏敬の念	(中) 感動, 畏敬の念	54
(小) よりよく生きる喜び	(中) よりよく生きる喜び	56

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「善悪の判断, 自律, 自由と責任」
 中学校「自主, 自律, 自由と責任」

小・中学校学習指導要領
 (平成29年告示)解説
 (小) p.28,29
 (中) p.26,27

発達段階に応じた指導

小学校低学年	よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。
小学校中学年	正しいと判断したことは, 自信をもって行うこと。
小学校高学年	自由を大切に, 自律的に判断し, 責任のある行動をすること。
中学校	自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(1)	積極的に行うべきよいことと, 人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。また, よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせるなどして, 小さなことでも遠慮しないで進んで行うことができる意欲と態度を育てる指導を充実していくことが大切である。また, 身近な事例を踏まえ, 人としてしてはならないことをしないことについて, 一貫した方針をもち, 毅然とした態度で指導していくことが重要である。
小学校中学年 A-(1)	正しいことを行えないときの後ろめたさや, 自ら信じることに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考え, 正しいと判断したことは自信をもって行い, 正しくないと判断したことは行わないようにする態度を育てる必要がある。特に, 正しくないと考えられることを人に勧めないことはもとより, 人から勧められたときにきっぱりと断ったり, 正しくないと考えられることをしている人を止めたりできるように指導することが大切である。
小学校高学年 A-(1)	自由と自分勝手の違いや, 自由だからこそできることやそのよさを考えたりして, 自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。また, 自由に伴う自己責任の大きさについては, 自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して, 多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。そのことが, 自らの自律的で責任のある行動についてのよさの理解を一層深めることにつながる。
中学校 A-(1)	小学校における指導内容を更に発展させ, より高次の自立心や自律性を高め, 規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず, 自己の気高さに気付かせ, 何が正しく, 何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても, 自ら考え, 判断し, 自分の自由な意志に基づいて決定し, それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し, 失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。 さらに, 悪を悪としてはっきり捉え, それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良心に基づくよい行為とは, 自分にとっても他者にとってもよい行為である。この意味で, 善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付き, 自分の行為の動機の純粋さにとどまらず, その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず, 自らを律し, 自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し, 人間としての誇りをもった, 責任ある行動がとれるように指導することが大切である。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目A 小学校「善悪の判断、自律、自由と責任」 中学校「自主、自律、自由と責任」>

学年	教材名	小1		小2		小3		小4		小5	小6	中1		中2		中3	
		ダメ	それって、おかしいよ	わすれられないえがお	おれたものさし	二つの声	S L公園で	ドッジボール	全校遠足とカワセミ	遠足の子どもたち	修学旅行の夜	傍観者でいいのか	父のひとこと	あの子のランドセル	金語楼さんのこと	ある日の午後から	スイッチ
低学年	指導の要点																
	よいことと人間としてはならないことを区別すること。	○	◎		○												
	よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こすこと。	◎		◎													
中学年	よいと思ったことを進んで行うこと。		○	○	◎												
	正しいことを行えないときの後ろめたさについて考えること。					◎		○									
	正しいことを行ったときの充実した気持ちについて考えること。								◎								
	正しいと判断したことを自信を持って行うこと。					○	○	◎	○								
	正しくない判断したことは行わないようにすること。					○	◎		○								
	正しくないことを人から勧められたときにきっぱりと断ること。						○		○								
高学年	正しくないと考えられることをしている人を止めること。					○	○										
	自由と自分勝手の違いを考えること。										○						
	自由だからできることとそのよさを考えること。									○							
	自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感すること。									◎							
中学校	自由に伴う自己責任の大きさを多面的・多角的に理解すること。										◎						
	自己の気高さに気付くこと。													○			
	何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとること。											○	○	○		○	
	自分の自由な意志に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感すること。												◎		○		◎
	悪を悪としてはっきり捉え、それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付くこと。											◎		○			
	善悪判断の基準となる多面的なものの方や考え方を身に付けることの重要性に気付くこと。																◎
	自分の行為が及ぼす結果についても深く考えること。												○	○	◎		○
自らを律し、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動をとること。													○		◎		

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「正直，誠実」
中学校「自主，自律，自由と責任」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.30,31
(中) p.26,27

発達段階に応じた指導

小学校低学年	うそをついたりごまかしたりしないで，素直に伸び伸びと生活すること。
小学校中学年	過ちは素直に改め，正直に明るい心で生活すること。
小学校高学年	誠実に，明るい心で生活すること。
中学校	自律の精神を重んじ，自主的に考え，判断し，誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(2)	うそやごまかしをしないで明るい心で楽しく生活することの大切さを押さえておくことは，児童が成長の過程で健康的な自己像を確立していくためにも大切なことである。
小学校中学年 A-(2)	正直であるからこそ，明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解し，この段階の活動的な特徴を生かしながら，児童それぞれが元気よく生活できるようにしていくことが望まれる。
小学校高学年 A-(2)	一人一人の誠実な生き方を大切にしながら，みんなと楽しい生活ができるようにしていくことが大切である。一方で，よくないことと知りつつも自分の意に反して周囲に流されてしまうことや傍観者として過ごしてしまうことは，決して心地のよいものではなく，後ろめたさから，誇りや自信を失ってしまうことにつながることを考えられるように指導することが必要である。
中学校 A-(1)	<p>小学校における指導内容を更に発展させ，より高次の自立心や自律性を高め，規律ある生活をしようとする心を育てることが必要である。中学校ではまず，自己の気高さに気付かせ，何が正しく，何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとれるようにすることが大切である。日常のどのような小さな行為においても，自ら考え，判断し，自分の自由な意志に基づいて決定し，それに対して責任をもたなければならないことを実感させる必要がある。そうした経験を通し，失敗も含めて自己の責任において結果を受け止めることができるようになる。</p> <p>さらに，悪を悪としてはっきり捉え，それを毅然として退け善を行おうとする良心の大切さに気付くようにしなければならない。良心に基づくよい行為とは，自分にとっても他者にとってもよい行為である。この意味で，善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付き，自分の行為の動機の純粹さにとどまらず，その行為が及ぼす結果についても深く考えられるようにすることが必要である。自由を放縦と誤解してはならず，自らを律し，自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し，人間としての誇りをもった，責任ある行動がとれるように指導することが大切である。</p>

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 A 小学校「正直, 誠実」 中学校「自主, 自律, 自由と責任」>

	学年		小1		小2		小3		小4		小5	小6	中1		中2		中3		
	教材名	指導の要点	どんぐり	あのね	いたずらがき	さるへいと立てふだ	金のおの	一本のアイス	ぬれた本リンカーン	ひびが入った水そう	「あかいセミ」	見えた答案	手品師	傍観者でいいのか	父のひとこと	あの子のランドセル	金語楼さんのこと	ある日の午後から	廃品回収で学んだこと
低学年	うそやごまかしをしないで明るい心で楽しく生活することの大切さに気付くこと。		◎	◎	◎	◎	◎												
中学年	正直であるからこそ、明るい心で伸び伸びとした生活が実現できることを理解すること。							◎	◎	◎	◎								
高学年	一人一人の誠実な生き方を大切にしながら、みんなと楽しい生活ができるようにしていくこと。											○							
	よくないことと知りつつも周囲に流されることや傍観者として過ごすことは、誇りや自信を失うことにつながる。										◎								
中学校	自己の気高さに気付くこと。																○		
	何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動をとること。													○	○	○		○	
	自分の自由な意志に基づいて決定し、それに対して責任をもたなければならないことを実感すること。														◎		○		○
	悪を悪としてはっきり捉え、それを毅然として退け善を行おうとする心の大切さに気付くこと。													◎		○			
	善悪判断の基準となる多面的なものの見方や考え方を身に付けることの重要性に気付くこと。																	◎	
	自分の行為が及ぼす結果について深く考えること。														○	○	◎		○
自らを律し、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動をとること。														○		◎		◎	

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「節度、節制」
中学校「節度、節制」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.32,33
(中) p.28,29

発達段階に応じた指導

小学校低学年	健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする事。
小学校中学年	自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする事。
小学校高学年	安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける事。
中学校	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(3)	時刻を守り時間を大切にすることや、生活に一定のリズムを与え、わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切なことであり、そのような生活が快適な毎日を送ることにつながることに気付かせ、基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるように繰り返し指導する必要がある。
小学校中学年 A-(3)	適宜、自分でできることを考えさせるようにすることが求められる。また、低学年の内容として示されていた基本的な生活習慣に関する具体的な事項については、この段階では内容の表現上は省略されているが、児童の状況に応じて適宜、継続的に指導していく必要がある。
小学校高学年 A-(3)	基本的な生活習慣は心身の健康を維持増進し、活力のある生活を支えるものであることへの理解を一層深めるようにする必要がある。また、児童一人一人が自分の生活を振り返り、改善すべき点などについて進んで見直ししながら、望ましい生活習慣を積極的に築くとともに、自ら節度を守り節制に心掛けるように継続的に指導することが求められる。
中学校 A-(2)	まず、小学校段階からの節度、節制の大切さについて理解を一層深めるとともに、生活全般にわたり安全に配慮して、心身の調和のある生活を送ることの意義をしっかりと考えることができるようにすることが大切である。そのために、そこでは行動の仕方や物事の処理の問題として捉えさせるだけでは十分ではない。心身の健康の増進、生涯にわたって学ぼうとする意欲や習慣、時間や物を大切にすること、常に安全に配慮して生活すること、望ましい生活習慣を身に付けることなどが、充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを、生徒自らが自覚できるようにすることが大切である。 さらに、改めて基本的な生活習慣や防災訓練、交通安全等の安全に関わる活動の意義について学ぶ機会を設けることが大切である。きまりある生活を通して自らの生き方を正し、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活の実現に努めることが、自分自身の将来を豊かにするものであることを自覚できるようにすることが何よりも重要である。単に日々の生活だけの問題ではなく、自らの生き方そのものの問題であり、人生をより豊かなものにする事との関係で学ぶことができるようにすることが必要である。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 A 小学校「節度、節制」 中学校「節度、節制」>

学年	小1		小2		小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3											
	教材名	じゅぎょうがはじまりますよ	きをつけて	かぼちゃのつる	じぶんでおツケー	「かむかむメニュー」	わがままな大男	ゆうすけの朝	こうすけならだじょうぶ	いっしょになって、わらっちゃだめ	目ざまし時計	流行おくれ	大きなじこをよぶ「ヒヤリ・ハット」	お母さん、お願いね	「すんまへん」でいい	山に来る資格がない	古びた目覚まし時計	白ご飯を指して―萩野公介	田老の生徒が伝えたもの	早朝ドリブル	スマホに夢中!	
低学年	時刻を守り時間を大切にすることや、生活に一定のリズムを与え、わがままをしない規則正しい生活が自分にとって大切であることに気付くこと。	◎	◎			◎																
	規則正しい生活が、快適な毎日を送ることにつながることに気付くこと。		○		◎																	
	基本的な生活習慣を確実に身に付けることができるようにすること。		◎	○	○	◎																
中学年	自分でできることを考えること。						◎	◎														
	身の回りの安全に気を付けること。						◎		◎													
	自分自身で考えて行動し、度を過ぎることなく節度のある生活のよさを考えること。						○	○	○	○												
高学年	基本的な生活習慣は心身の健康を維持増進し、活力のある生活を支えるものであることを理解すること。														◎							
	生活を振り返り、改善すべき点などについて進んで見直しながら、望ましい生活習慣を築くこと。											○	◎	○								
	自ら節度を守り節制に心掛けながら望ましい生活習慣を築くこと。												◎	○	◎	○						
中学校	心身の健康の増進が充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。																○		◎		◎	
	生涯にわたって学ぼうとする意欲や習慣が充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。																		○	○	○	
	時間や物を大切にすることが充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。																	○				
	常に安全に配慮して生活することが充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。																	○		◎		◎
	望ましい生活習慣を身に付けることが充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚すること。																		◎			○
	きまりある生活を通して自らの生き方を正し、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活の実現に努めることが、自分自身の将来を豊かなものにすることを自覚すること。																	◎	○			

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「個性の伸長」
中学校「向上心、個性の伸長」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.34,35
(中) p.30,31

発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分の特徴に気付くこと。
小学校中学年	自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。
小学校高学年	自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。
中学校	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(4)	児童の長所を積極的に認め、励まし、児童自身が具体的な場面で芽生えてくる自分の長所にできるだけ多く気づき、実感していけるようにすることが、よさを伸ばすことにつながっていく。
小学校中学年 A-(4)	友達など他者との交流の中で互いを認め合い、自己を高め合える場を設定したりして、長所を伸ばそうとする意欲を引き出すことが大切である。
小学校高学年 A-(4)	この段階においては、自己の生き方を見つめ、自分の特徴を多面的・多角的に捉えることが必要である。そうすることにより、自分自身の長所と短所の両面が見えてくる。その際、まず、自分が気付いた長所に目を向けて現状を維持し続けることの大切さや、更に積極的に長所を伸ばそうとする態度を育てる必要がある。そして同時に自分の短所などもしっかり見極め、短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ、それを課題として改善していく努力も重ねつつ、自分自身を伸ばしていくことが大切である。また、自己を振り返って改めるところは改め、自己を高めようとする意欲や態度は、継続されなければ将来にわたっての自己実現とはならず、本当の個性にはなっていない。 指導に当たっては、このことをよく理解し、具体的な実践を試みることができるようになることも重要である。
中学校 A-(3)	まず、短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえつつ、かけがえのない自己を肯定的に捉え(自己受容)させるとともに、自己の優れている面などの発見に努め(自己理解)させることが大切である。自分のよさは自分では分からないことが多いため、生徒相互の信頼関係を基盤として互いに指摘し合い、高め合う人間関係をつくっていくように指導することが重要となってくる。 さらに、自己との対話を深めつつ、自分自身のよさを伸ばしていくようにすることが大切である。例えば、優れた古典や先人の生き方との感動的な出会いを広げる中で、充実した人間としての生き方についての自覚を深め、これまで気付かなかった自分自身のよさや個性を見いだしていくこともある。教師は、生徒がそれぞれの人生で培ってきた個性を大切に、生徒のよさの発見に努めなければならない。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目A 小学校「個性の伸長」 中学校「向上心, 個性の伸長」>

		学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
指導の要点	教材名	ええところ	ありがとう、りょうたさん	じゃがいもの歌	うめのき村の四人兄弟	感動したこと、それがぼくの作品 ♪パプロ・ピカソ	あこがれのバティシエ♪好きな道を歩む	自分の性格が大嫌い!	私は十四歳	ぼくにもこんな「よいところ」がある	
	低学年	自分の長所にできるだけ多く気づき、実感すること。	◎	◎							
中学年	他者との交流の中で、自分の長所を伸ばそうとすること。			◎	◎						
高学年	自分が気付いた長所に目を向け、積極的に長所を伸ばそうとすること。						◎	◎			
	短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ、短所を課題として改善していき、自分自身を伸ばそうとすること。						○				
	自己を振り返り、改めることは改め、高めようとする意欲や態度を継続しようとする事。							○			
中学校	短所も自分の特徴の一側面であることを踏まえ、自己を肯定的に捉えられること。								◎		
	自己の優れている面などの発見に努めること。								○	◎	○
	自己との対話を深めつつ、自分自身のよさを伸ばしていくこと。									○	◎

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「希望と勇気, 努力と強い意志」
 中学校「希望と勇気, 克己と強い意志」

小・中学校学習指導要領
 (平成29年告示)解説
 (小) p.36,37
 (中) p.32,33

🔍 発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。
小学校中学年	自分でやろうと決めた目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。
小学校高学年	より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと。
中学校	より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

🔍 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 A-(5)	自分のやるべき勉強や仕事にはどのようなものがあり、しっかり行うことの意義を自覚させる必要がある。また、家族や教師の励ましや賞賛、適切な助言などの下に、自分がやるべき勉強や仕事を、自分がやるべきこととしてしっかりと行うことができるよう指導することが大切である。やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、努力した自分に気付くことができるように指導することが大切である。
小学校中学年 A-(5)	目標を立て、あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志が必要であることや苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さ、今よりよくなりたいという願い、努力しようとする姿について考えを深めていくことが求められる。目標を実現するためには、自分自身の努力だけでなく、家族や教師など、周りの人の励ましや賞賛があることに気付き、粘り強く努力しようとする態度を育てることが大切である。
小学校高学年 A-(5)	苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人に触れ、希望をもつことの大切さや、希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えることを通して、児童の中により積極的で前向きな自己像が形成されるようにすることが大切である。
中学校 A-(4)	まず、生活の中で具体的な目標を設定させ、その実現に向けて努力する体験をさせ、その体験を振り返って、目標の達成には何が必要かを考えたり、自らの歩みを自己評価させたりすることが大切である。そして、達成できたときの成就感や満足感を繰り返し味わわせるとともに、希望をもつが故に直面する困難や失敗の体験を勇気をもって受け止め振り返る活動を通して、目標の実現には困難や失敗を乗り越えることが必要であると実感させ、困難や失敗を乗り越える自分なりの方法について考えさせることが重要である。一方で、努力が全て思いどおりの結果に結び付くわけではない。したがって、教師は生徒の努力を評価し、挑戦することから逃げないで努力し続ける姿勢が大切であることを伝えていくことが重要である。 さらに、様々な人の生き方に学びながら、生涯をかけての理想や目標をもち、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが、日々の生活を充実することにつながることも、文化や社会の発展を支える力ともなってきたことに気付かせることが大切である。また、困難や失敗を乗り越える強い意志や逆境から立ち直る力を育むには、積極的な自己像の形成や困難に直面したときの心構えについて繰り返し学習し、積極的な思考や行動を習慣化していく指導も効果的である。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 A 小学校「希望と勇気、努力と強い意志」 中学校「希望と勇気、克己と強い意志」>

	学年	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1	中2	中3
		教材名	うかんだうかんだ	こぐまのらっぱ	さあがりできたよ	ぼくは「のび太」でした	一りん車にのれた	「あんぱんの日」〜木村安兵衛・英三郎	ぼくのへんしん	花丸手帳	いつも全力で	ベートーベン	心をつなぐ音色	夢	風を感じて―村上清加のチャレンジ	左手でつかんだ音楽
指導の要点																
	自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うことの意義を自覚すること。		◎		◎											
	自分がやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。			◎	○											
やり遂げたときの喜びや充実感を味わい、努力した自分に気付くこと。		◎	○	○												
中学年	目標を立て、あきらめずに粘り強くやり抜く強い意志をもつことについて考えを深めること。					◎			○							
	苦しくて途中であきらめてしまう人間の弱さについて考えを深めること。					○										
	今よりよくなりたいという願いについて考えを深めること。					○	○	◎								
	努力しようとする姿について考えを深めること。						◎		○							
	目標を実現するためには、自分自身の努力だけでなく、周りの人の励ましや賞賛があることに気付くこと。						○	○	○							
	粘り強く努力しようとする事。								◎							
高学年	希望をもつことの大切さについて考えること。									◎	○	◎	○			
	希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて考えること。									○	◎	○	◎			
中学校	生涯をかけての理想や目標をもち、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが、日々の生活を充実することにつながることに気付くこと。													○		◎
	生涯をかけての理想や目標をもち、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが、文化や社会の発展を支える力になってきたことに気付くこと。														◎	
	積極的な自己像の形成や困難や失敗に直面したときの心構えについて考えること。													◎	○	○

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。『指導の要点』と教材関連表』をダウンロードして活用してください。

A 主として自分自身に関すること

内容項目 小学校「真理の探究」
中学校「真理の探究，創造」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.38,39
(中) p.34,35

発達段階に応じた指導

小学校高学年 真理を大切にし，物事を探究しようとする心をもつこと。
中学校 真実を大切にし，真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

指導に当たって	
小学校低学年	
小学校中学年	
小学校高学年 A-(6)	<p>真理を求める態度を大切にし，物事の本質を見極めようとする知的な活動を通して興味や関心を刺激し，探究する意欲を喚起させることが大切である。そのためには，物事を多面的・多角的に見ようとする開かれた心をもって，疑問を探究し続けることの大切さを実感させることである。また，生活の中で思い付いたことをそのままにすることなく，自分の生活を少しでもよりよくしていくために工夫していこうとする心を育てることが，新たな見方や考え方の発見や創造につながる。このように日々の生活の充実とその指導を通して，将来の夢や理想を実現することにつながる。</p>
中学校 A-(5)	<p>まず，生徒自身の学習体験を振り返りながら，分からないことを謙虚に受け止めて探究し続け，真理や真実を求めつつ，好奇心をもって意欲的に学び，工夫して新しいものを創造していこうとする積極的な態度を育てることが重要である。一般的に，科学的な真実や真理は個々の具体的な自然現象や社会現象の背景にあるものであり，何もないところから突然生まれるものではない。したがって，真実や真理の探究には，広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする開かれた心や，結論を鵜呑みにせずに論理的・批判的に考える姿勢が必要であることに気付かせ，疑問や問いを探究し続けることが新たな見方や考え方の発見や創造につながり，自分の生涯を豊かにすることにつながることを自覚できるようにすることが必要である。</p> <p>さらに，真実や真理を探究して社会の発展や学問，科学技術に貢献した人々の生き方に学ぶとともに，それらの人々の探究心を支えたものについて考え，生徒が自らの生き方に生かすことができるよう工夫することが重要である。また，高等学校段階への発展を踏まえて，葛藤や論争のある問題を道徳的な視点で取り上げ，よりよい解決を目指して協働で探究することを通して，生徒がアイデアを出し合っ，よりよい見方や考え方を主体的・協働的に創っていく学習活動を実践し，創意工夫して新しい見方や考え方を生み出すことを生徒が身近なこととして体験できるようにすることが大切である。</p>

「指導の要点」と教材関連表 <A 小学校「真理の探究」 中学校「真理の探究，創造」>

		学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
指導の要点	教材名							ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ	まんがに命をく手塚治虫 日本のテレビアニメの生みの親	「どうせ無理」という言葉に負けない	赤土の中の真実	日本から世界へ、そして宇宙へ — インスタントラーメンの誕生
低学年												
中学年												
高学年	物事を多面的・多角的に見ようとする開かれた心をもって、疑問を探究し続けることの大切さを実感すること。						◎	○				
	生活をよりよくしていくために工夫していこうとすること。						○	◎				
中学校	分からないことを謙虚に受け止め探究し続け、真理や真実を求めつつ、好奇心をもって意欲的に学び、工夫して新しいものを創造していこうとすること。								◎			○
	真実や真理の探究には、広い視野に立って多面的・多角的に見ようとする開かれた心が必要であることに気付くこと。								○			
	真実や真理の探究には、結論を鵜呑みにせず論理的・批判的に考える姿勢が必要であることに気付くこと。										○	
	疑問や問いを探究し続けることが新たな見方や考え方の発見や創造につながり、自分の生涯を豊かにすることを自覚すること。										◎	○
	真実や真理を探究して社会の発展や学問、科学技術に貢献した人々の生き方を学ぶとともに、それらの人々の探究心を支えたものについて考え、自分の生き方に生かすこと。									○	○	◎

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「親切、思いやり」
中学校「思いやり、感謝」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.40,41
(中) p.36,37

○ 発達段階に応じた指導

小学校低学年	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。
小学校中学年	相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
小学校高学年	誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすること。
中学校	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

○ 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 B-(6)	幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。そして、身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにすることが求められる。また、その結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。
小学校中学年 B-(6)	相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちであることなどを自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるようにしていくことが大切である。
小学校高学年 B-(7)	特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことも大切である。そのためには、児童が多様な人々と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。
中学校 B-(6)	まず、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしかり自覚できるようにすることが大切である。そして、思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ、結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。 さらに、重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは、決して容易なことではない。これらのことを踏まえた上で、互いに支え合う経験を積みながら、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、人間として生きることに喜びを見いだすとともに、思いやりと感謝の心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある。なお、感謝の心は、他者との関わりに始まり、多くの社会の人々への感謝、さらには自然の恵みへの感謝へと次第に広がっていくものである。したがって、Cの視点やDの視点との関連を図りつつ指導する必要がある。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 B 小学校「親切, 思いやり」 中学校「思いやり, 感謝」>

指導の要点	小1			小2			小3			小4			小5			小6			中1			中2			中3			
	はしのうえのおおかみ	おばあちゃんがわらった	ぼくのはなさいたけど	くまのたからもの	かっぱわくわく	学びゆうえんのさつまいも	やさしい人大さくせん	一さつのおくりもの	六べえじいとちよ	なにかお手つたいできることはありますか?	ゆうきの心配	ポロといっしょ	ノンステップバスのできごと	くずれ落ちたたんボール箱	みんないっしょだよ〜黒柳徹子	心に通じた「どうぞ」のひとこと	その人が本当に望んでいること/思いやりの日々	心をつなぐバス	愛	心に寄りそう	植生の宿	一冊の漫画雑誌						
低学年	身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深めること。	○	○		◎	○																						
	身近にいる様々な人との触れ合いの中で相手のことを考え、優しく接すること。	○	◎		○	○	◎																					
	優しく接することの結果として相手の喜びを自分の喜びとして受け入れ、具体的に親切な行為ができるようにすること。	◎		◎	◎																							
中学年	相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい気持ちでいることなどを自分のこととして想像して相手のことを考えること。						○	◎	◎	○	◎	◎																
	親切な行為を自ら進んで行うことができるようにすること。						◎	○	○	◎	○	○																
高学年	相手の立場に立ち、自分自身が相手に対してどのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えること。												◎	◎	◎	○												
	人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりを伴った親切な行為を全ての人に広げること。														○	◎												
中学校	自分も他者も共にかけがえのない存在であるということに自覚すること。																		◎		○							
	思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考え、結果として自己と他者との心の絆をより強くすることに気付くこと。																		◎		○	◎						
	重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは、容易なことではないことに気付くこと。																		◎			○						
	人間として生きることの喜びを見いだすとともに、思いやりと感謝の心と態度について考えること。																		○		○	◎					○	
感謝の心は、他者との関わりに始まり、多くの社会の人々への感謝、さらに自然の恵みへの感謝と次第に広がっていくことに気付くこと。																		○								◎		

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「感謝」
中学校「思いやり、感謝」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.42,43
(中) p.36,37

発達段階に応じた指導

小学校低学年	家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。
小学校中学年	家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
小学校高学年	日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。
中学校	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 B-(7)	感謝の対象や具体的な内容を教師が適切に示す必要がある。世話をしてくれる人々の善意に気付き、感謝する気持ちを具体的な言葉に表し、行動に表す指導が求められる。
小学校中学年 B-(7)	自分の生活を支えてくれる人の思いを考え、その人たちの存在意義に対する理解を深め、尊敬と感謝の念をもって接することができるようにすることが大切である。
小学校高学年 B-(8)	過去から、人々が何を願い、何を残し伝えてきたのか、それは自分の生活とどう関わり、支えられているのかに気付くことができるようにすることが大切である。支え合い助け合おうとする人々の善意に気付き感謝する心情や態度を育て、自他を尊重する温かな人間関係を築くことのできる資質・能力を育てることが求められる。温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝し、人々の善意に応じて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践できるようにするところまで指導する必要がある。
中学校 B-(6)	まず、単に思いやりの大切さに気付かせるだけでなく、根本において自分も他者も、共にかけがえのない存在であるということをしっかり自覚できるようにすることが大切である。そして、思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考えさせ、結果として自己と他者との心の絆をより強くするのだということに気付かせたい。 さらに、重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは、決して容易なことではない。これらのことを踏まえた上で、互いに支え合う経験を積みながら、温かい人間愛の精神に基づく体験の機会を生かし、人間として生きることの喜びを見いだすとともに、思いやりと感謝の心と態度が育まれていくよう工夫する必要がある。なお、感謝の心は、他者との関わりに始まり、多くの社会の人々への感謝、さらには自然の恵みへの感謝へと次第に広がっていくものである。したがって、Cの視点やDの視点との関連を図りつつ指導する必要がある。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 B 小学校「感謝」 中学校「思いやり、感謝」>

	学年	小1		小2	小3	小4	小5	小6	中1		中2		中3	
		教材名	がつこうにはね	みんなだれかに	じぶんがしんごうきに	大通りのサクラなみ木	紙しばいをつくって発表しよう	「ありがとう上手」に	土石流の中で救われた命	その人が本当に望んでいること ／思いやりの日々	心をつなぐバス	心に寄りそう	愛	一冊の漫画雑誌
	指導の要点													
低学年	世話をしてくれる人々の善意に気付くこと。	◎	○	◎										
	感謝する気持ちを具体的な言葉に表し、行動に表すことができるようにすること。	○	◎	○										
中学年	自分の生活を支えてくれる人の思いを考え、その人たちの存在意義に対する理解を深めること。				◎	○								
	自分の生活を支えてくれる人に尊敬と感謝の念をもって接すること。					◎								
高学年	過去の人々の願いや残し伝えてきたことが、自分の生活とどう関わり、支えられているのかに気付くこと。							○						
	支え合い助け合おうとする人々の善意に気付き感謝することで、自他を尊重する温かな人間関係を築くこと。						○	◎						
	温かなつながりの中に自分の生活があることに感謝すること。						◎							
	人々の善意に応じて自分は何をすべきかを自覚し、進んで実践すること。						○	○						
中学校	自分も他者も共にかけがえのない存在であるということを自覚すること。											◎		○
	思いやりや感謝の気持ちを言葉にして素直に伝えようとする心が、今自分が相手に対して何をもって応答することができるかを考え、結果として自己と他者との心の絆をより強くすることに気付くこと。										◎	○		◎
	重荷にならないようにという配慮がなされた思いやりに気付くことは、決して容易なことではないことに気付くこと。									◎				○
	人間として生きることの喜びを見いだすとともに、思いやりと感謝の心と態度について考えること。									○		◎	○	○
	感謝の心は、他者との関わりに始まり、多くの社会の人々への感謝、さらに自然の恵みへの感謝へと次第に広がっていくことに気付くこと。										○			◎

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。『「指導の要点」と教材関連表』をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「礼儀」
中学校「礼儀」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.44,45
(中) p.38,39

発達段階に応じた指導

小学校低学年	気持ちのよい挨拶，言葉遣い，動作などに心掛けて，明るく接すること。
小学校中学年	礼儀の大切さを知り，誰に対しても真心をもって接すること。
小学校高学年	時と場をわきまえて，礼儀正しく真心をもって接すること。
中学校	礼儀の意義を理解し，時と場に応じた適切な言動をとること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 B-(8)	日常生活を送るために欠かせない基本的な挨拶などについて，具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせることが重要である。また，外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀についても考えさせることが重要である。
小学校中学年 B-(8)	この段階の児童が気の合う友達同士で仲間集団をつくる傾向が見られるため，誰に対しても真心をもって接する態度を育てるようにすることが特に重要である。人に頼むときや失敗して謝るときなど人との関わりを通して，真心は相手に態度で示すことができることに気付かせることもできる。また，家庭や地域社会での日常の挨拶，学習や給食の際の態度，校外学習など見学先での振る舞いなどについて考えさせることも大切である。
小学校高学年 B-(9)	行動範囲の広がりとともに様々な人との関わりも増えてくることから，挨拶などの礼儀は社会生活を営む上で欠くことのできないものであることを押さえ，礼儀作法の形にこめられた相手を尊重する気持ちを児童自身の体験などを通して考えさせることが効果的である。また，礼儀に対する意識を高めるために，自分の一日の生活の中にある礼儀を見直したり，武道や茶道など我が国に古くから伝わる礼儀作法を重視した文化に触れたりすることも考えられる。
中学校 B-(7)	まず，教えられ無意識に習慣として実践してきた受け身の姿勢から，挨拶の意義などを主体的に考え理解し，例えば，時・場所・場面(TPO)に応じて，自ら挨拶をしてからお辞儀をするなど，適切な言葉や行動ができる自律した態度へ変わっていくことが求められる。日常生活において，時と場に応じた適切な言動を体験的に学習するとともに，形の根底に流れる礼儀の意義を深く理解できるようにすることが大切である。心情面を整えることによって，形として外に表すことができるようになることもある。 さらに，礼儀の形は時代や社会によって変わる相対的な面をもっている一方で，その精神は伝統として受け継がれるものもある。例えば我が国には伝統的な礼儀作法があるように，他国にもそれぞれの国に応じた礼儀作法がある。国際化の進展に伴い他国の人々に接する機会が多くなった今日，他国の礼儀についても理解を深め，他国の人々に気持ちよく接することができるように指導することが大切である。礼儀は，相手を人間として尊重する精神の現れであることを十分に理解させ，時と場に応じて主体的に適切な言動が行われることが求められている。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 B 小学校「礼儀」 中学校「礼儀」>

	学年	小1		小2		小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
	教材名	あいさつ	おうだんほうどうで	いそいでいても	「あいさつ」っていいな	あいさつをすると	「ありがとう」の言葉	オーストラリアで学んだこと	心を形に	朝市の「おはようございます」	あいさつ	言葉おしめ
低学年	日常生活を送るために欠かせない基本的な挨拶などについて、実感的に理解を深めること。	◎	◎	○	◎							
	外出時や公共の場での振る舞い方など社会との関わりの中での礼儀について考えること。	○	○	◎	○							
中学年	誰に対しても真心をもって接すること。					○	◎					
	真心は相手に態度で示すことができることに気付くこと。						○					
	家庭や地域社会での日常の挨拶、学習や給食の際の態度、校外学習など見学先での振る舞いなどについて考えること。					◎						
高学年	挨拶などの礼儀は社会生活を営む上で欠くことのできないものであることを押さえること。							◎				
	相手を尊重する気持ちを自分自身の体験などを通して考えること。								○			
	礼儀に対する意識を高めること。							○	◎			
中学校	挨拶の意義などを主体的に考え、理解すること。									◎	○	
	形の根底に流れる礼儀の意義を深く理解すること。										◎	○
	他国の礼儀についても理解を深め、他国の人々に気持ちよく接することができるようにすること。									○		
	礼儀は、相手を人間として尊重する精神の現れであることを十分に理解すること。											◎

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「友情、信頼」
中学校「友情、信頼」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.46,47
(中) p.40,41

発達段階に応じた指導

小学校低学年	友達と仲よくし、助け合うこと。
小学校中学年	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
小学校高学年	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。
中学校	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 B-(9)	特に身近にいる友達と一緒に、仲よく活動することのよさや楽しさ、助け合うことの大切さを実感できるようにすることが重要である。また、友達とけんかをして、友達の気持ちを考え、仲直りできるようにする。そのためには、友達と一緒に活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲よくする大切さを育てていくようにする必要がある。
小学校中学年 B-(9)	友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的に育成していくことが大切である。そのためには、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることができるように指導することが大切である。
小学校高学年 B-(10)	健全な友達関係を育てていくことが一層重要になる。この段階が第二次性徴期に入るため、異性に対する関心が強まり、これまでとは異なった感情を抱くようになる。この異性間の在り方も根本的には同性間におけるものと同様、互いの人格の尊重を基盤としている。異性に対しても、信頼を基にして、正しい理解と友情を育て、互いのよさを認め、学び合い、支え合いながらよい関係を築こうとすることに配慮して指導することが大切である。
中学校 B-(8)	まず、友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であること、互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解させたい。友達であるからこそ、悩みや葛藤を経験し、共にそれを乗り越えることで、生涯にわたり尊敬と信頼に支えられた友情を築くことができることへの自覚が重要である。友情は、人間にとってその人生を豊かにするかけがえのないものである。友情によって喜びは何倍にもなり、悲しみや苦しみは分かち合うことができる。人間として互いの人格を尊敬し高め合い、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築していこうとする意欲や態度を育てていくことが肝要である。 さらに、自分から友情を築くための共通の課題について考えを深めたり、互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築かれることに気付いたりするための工夫が望まれる。そして、自ら友情を大切に、育てようとする態度を育てることや、信頼を基盤として成り立つ友情が人間として生きる上で、いかに尊いものであるかを実感できるよう指導を工夫する必要がある。異性であっても、相手のものの見方や考え方を理解するなど、友情を築き、共に成長しようとする姿勢が求められる。各自の異性に対する姿勢を見直すきっかけとなるよう指導することも必要である。相手の内面的なよさに目を向け、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係のよさを味わわせたい。また、友情を培うために自分はどうかあればよいか、友情とは何か、などについて発達の段階に応じて意見を交換し合うなど、発展的な指導を心掛けることも重要である。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 B 小学校「友情、信頼」 中学校「友情、信頼」>

	学年	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1		中2		中3		
		教材名	こころはっぱ	二わのことり	ともだちやもんな、ぼくら	森のともだち	いいち、にいつ、いいち、にいつ	なかよしだから	ぼくらだってオーケストラ	大きな絵はがき	心のレシーブ	友の命	ばかじゃん！	言葉のおくりもの	班での出来事	短文投稿サイトに友達への悪口を書くこと	みんなでとんだ！	ゴール	ライバルどうしの友情 「スピードスケート」 小平奈緒と李相花	合格通知
低学年	身近にいる友達と一緒に仲よく活動することのよさや楽しさを実感すること。	◎	◎	○																
	身近にいる友達と一緒に助け合うことの大切さを実感すること。	○		◎	○															
	友達とけんかをしても、友達の気持ちを考え、仲直りできるようにすること。				◎															
中学年	友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことで、健全な仲間集団を積極的につくろうとすること。						○		○											
	友達のよさを発見することで友達のことを理解すること。					◎		◎												
	友達とのよりよい関係の在り方を考えること。						◎	○	◎											
	互いに助け合うことで友達の大切さを実感すること。					○		○												
高学年	健全な友達関係を育てていくこと。										○	◎	○							
	異性に対しても信頼を基にして、正しい理解と友情を育てること。									◎			◎							
	互いのよさを認め、学び合い、支え合いながらよい関係を築こうとすること。									○	◎									
中学校	友情は互いの信頼を基盤とする人間として最も豊かな人間関係であることを理解すること。														○		○		○	
	互いの個性を認め、相手への尊敬と幸せを願う思いが大切であることを理解すること。														○		◎		○	
	友達であるからこそ、悩みや葛藤を経験し、共にそれを乗り越えることで、生涯にわたり尊敬と信頼に支えられた友情を築くことができることを自覚すること。																	◎	○	○
	人間としての互いの人格を尊敬し高め合い、悩みや葛藤を克服することで、より一層深い友情を構築しようとする。															○		○	○	◎
	自分から友情を築くための共通の課題について考えを深めること。																	○		
	互いの正しい理解によってより豊かな人間関係が築かれることに気付くこと。																	○	○	
	自ら友情を大切に、育てようとする。																○			
	信頼を基盤として成り立つ友情が人間として生きる上で、いかに尊いものであるかを実感すること。																○	○		○
異性であっても相手のものの見方や考え方を理解するなど、友情を築き、共に成長しようとする異性に対する姿勢を見直すこと。																◎				
相手の内面的なよさに目を向け、相手の成長を心から願って互いに励まし合い、忠告し合える信頼関係のよさを味わうこと。															○	◎			○	

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

B 主として人との関わりに関すること

内容項目 小学校「相互理解, 寛容」
中学校「相互理解, 寛容」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.48,49
(中) p.42,43

○ 発達段階に応じた指導

小学校中学年	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
小学校高学年	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。
中学校	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

○ 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年	
小学校中学年 B-(10)	相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深め、自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気付くようにすることが大切である。日常の指導においては、児童同士、児童と教師が互いの考えや意見を交流し合う機会を設定し、異なる考えや意見を大切にすることのよさを実感できるように指導することが大切である。
小学校高学年 B-(11)	広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるように指導することが大切である。
中学校 B-(9)	まず、個性とは何かについて正しく理解するとともに、自らの意志に背いて他に同調するのではなく、自分の考えや意見を伝えること、そして互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする態度を育てることが大切である。中学生は、他者の考えや立場を尊重し調和して生活していかなければならないと知っているが、その一方で、寛容に生きていくための処世の術のように理解していないか、問わなくてはならない。寛容は、他人の過ちを大目に見たり、見て見ぬふりをしたりすることではない。他人の過ちを許すことは、他人の不正を許すことではないのである。 さらに、いろいろなものの見方や考え方から学び、自分自身を高め、他者と共に生きるという自制を伴った気持ちで、判断し行動することの大切さを理解できるような指導の工夫が必要になる。このような指導を通して、例えばいじめや不正を見逃さず、排除しようとする主張や不正を指摘する資質や能力を培うことにつなげることができる。この内容項目の学習を通して、人間が相互に個性や立場を尊重することが、自分の人生にとってどのような価値をもつのか考えるとともに、誰もが様々な立場に立って個性を発揮することのよさと、相手や場面が変わっても、寛容の心を持ち謙虚に他に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解できるようにすることが大切である。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目B 小学校「相互理解, 寛容」 中学校「相互理解, 寛容」>

	学年	小学校			中学校			中学校					
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
指導の要点	教材名			たまちゃん、大すき	合い言葉は「話せばわかる！」	名医、順庵	銀のしよく台	いじめに当たるのはどれだろう	落語が教えてくれること	遠足で学んだこと	「注文のまちがえる料理店」	しあわせ	心にしみこむ「言葉の力」池上彰
	低学年												
中学年	相手の言葉の裏側にある思いを知り、相手への理解を深めること。			◎									
	相手からの理解が得られるように思いを伝えること。				◎								
	異なる意見を大切にすることのよさを実感すること。				○								
高学年	広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。						◎						
	自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよいものが生まれるといったよさを知ること。					○							
	相手の過ちなどに対しても謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるようにすること。					◎	○						
中学校	個性について正しく理解すること。							○				◎	
	自らの意志に背いて他に同調するのではなく、自分の考えや意見を伝えること。									○			
	互いの個性や立場を尊重し、広い視野に立っていろいろなものの見方や考え方があることを理解しようとする。								◎		○		○
	他者と共に生きるという自制を伴った気持ちで判断し行動することの大切さを理解すること。								◎				
	人間が相互に個性や立場を尊重することが、自分の人生にとってどのような価値をもつか考えること。										◎	○	
	誰もが様々な立場に立って個性を発揮することのよさを理解すること。									◎	○		
	相手や場面が変わっても寛容の心をもち謙虚に学ぶことが人間としての成長に役立つことを理解すること。												◎

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「規則の尊重」
中学校「遵法精神、公德心」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.50,51
(中) p.44,45

発達段階に応じた指導

小学校低学年	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。
小学校中学年	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
小学校高学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
中学校	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(10)	身近な約束やきまりを取り上げ、それらはみんなが気持ちよく安心して過ごすためにあることを理解し、しっかりと守ろうとする意欲や態度を育てることが大切である。また、みんなで使う物や場所を進んで大切にし、工夫して使いたいという判断力や態度を身に付けられるように指導することが必要である。
小学校中学年 C-(11)	一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、それらを守るように指導していくことが大切である。さらに、社会集団を維持発展する上で、社会生活の中において守るべき道徳としての公德を進んで大切にす態度にまで広げていく必要がある。特に、集団生活をする上で、一人一人が相手や周りの人の立場に立ちよりよい人間関係を築くことや、集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分考えることが必要である。
小学校高学年 C-(12)	社会生活を送る上で必要であるきまりや、国会が定めるきまりである法(法律)などを進んで守り従うという遵法の精神をもつところまで高めていく必要がある。また、他人の権利を理解、尊重し、自分の権利を正しく主張するとともに、義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め、自分に課された義務についてはしっかりと果たそうとする態度を育成することが重要である。また、身近な集団生活を送る上においても、みんなで互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動ができるようにする必要がある。
中学校 C-(10)	まず、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促すことが求められる。自他の権利を大切にし、義務を果たすことで、互いの自由意志が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解した上で、社会の秩序と規律を自ら高めていこうとする意欲を育て、日々の実践に結び付ける指導が必要である。その際、法やきまりを守ることは、自分勝手に放縦な反発等に対してそれらを許さないという意味をもつことと表裏の関係にある。 さらに、法やきまりの他律的な捉え方を越えて、「尊重したいから守る」という自律的な捉え方ができるようになるため、遵法精神には、「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からはうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりの心が関わっていることに気付かせる指導が求められる。また、高等学校段階への発展を踏まえて、自分たちを拘束すると感じる法やきまりが自分たちを守るだけでなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを考えさせ、よりよいものに変えていこうとするなど積極的に法やきまりに関わろうとする意欲や態度を育てるとともに、権利と義務の関係について、例えば法的に強制力のない義務を果たすことが理性的な人間としての生き方につながることを考えさせるなど、公德心に関わる道徳性を意識した指導の工夫が必要である。これらのことを踏まえて、自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら、「私」を大切にす心と「公」を大切にす心の関係について考えを深めさせることが望まれる。

「指導の要点」と教材の関連表 <内容項目C 小学校「規則の尊重」 中学校「違法精神、公德心」>

	学年		小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1		中2		中3	
	教材名	よりみち	みんなのボール	きいろいベンチ	かくしたボール	きまりじゃないか	黄色いかさ	日曜日のパーベキュー	雨のバスでいりゆう所で	駅前広場はだれのもの	これって「けんり」？これって「きむ」？	ピアノの音が	星野君の二るい打	選手に選ばれて	ごみ箱をもっと増やして	「いいね」のために？	宝塚方面行きー西宮北口駅	缶コーヒー	二通の手紙	
指導の要点																				
低学年	身近な約束やきまりは、みんなが気持ちよく過ごすためであることを理解すること。		○	◎																
	身近な約束やきまりは、みんなが安心して過ごすためであることを理解すること。	◎																		
	身近な約束やきまりをしっかりと守ろうとすること。				◎															
	みんなで使う物や場所を進んで大切に、工夫して使おうとすること。		◎	○	○															
中学年	一般的な約束や社会のきまりの意義やよさについて理解し、守ること。								◎											
	社会集団を維持発展する上で、社会生活の中において守るべき道徳としての公德を進んで大切にすること。						◎		○											
	集団生活をする上で、一人一人が相手や周りの人の立場に立ちよりよい人間関係を築くこと。									◎										
	集団の向上のために守らなければならない約束やきまりを十分考えること。						◎													
高学年	社会生活を送る上で必要であるきまりや、法律などを進んで守り従うという遵法の精神をもつこと。										◎									
	他人の権利を理解、尊重し、自分の権利を正しく主張すること。										○									
	義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについて考えを深めること。											◎	○							
	自分に課せられた義務についてはしっかり果たそうとすること。													◎						
	みんなで互いの権利を尊重し合い、自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動をしようとする事。													◎	○					
中学校	法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについて自覚すること。																◎			◎
	自他の権利を大切に、義務を果たすことで、互いの自由意志が尊重され、結果として規律ある安定した社会が実現することを理解すること。														◎			○	○	
	社会の秩序と規律を自ら高めていこうとすること。															○			◎	
	法やきまりの他律的な捉え方を越えて、「尊重したいから守る」という自律的な捉え方をすること。																	○		
	自分たちを拘束すると感じる法やきまりが自分たちを守るだけでなく、自分たちの社会を安定的なものにしていることを考え、積極的に法やきまりに関わろうとすること。															◎				○
	権利と義務の関係について、法的に強制力のない義務を果たすことが理性的な人間としての生き方につながることを考えること。														○		○			
	自分たちが社会の構成員の一人であることの意識をもちながら「私」を大切にす心と「公」を大切にす心の関係について考えを深めること。																◎			

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「公正、公平、社会正義」
中学校「公正、公平、社会正義」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.52,53
(中) p.46,47

発達段階に応じた指導

小学校低学年	自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。
小学校中学年	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。
小学校高学年	誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。
中学校	正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(11)	日常の指導において、公正、公平な態度に根ざした具体的な言動を取り上げて、そのよさを考えさせるようにすることが大切である。また、偏見や差別が背景にある言動については、毅然として是正することが必要である。これらの指導を通して、児童が誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C-(12)	不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに、そのことが人間関係や集団生活に支障を来したいじめなどにつながることを理解させることが求められる。誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができるようにすることが重要である。
小学校高学年 C-(13)	不正な行為は絶対に行わない、許さないという断固たる態度を育てることが大切である。日頃から自分自身の考えをしっかりとち、同調圧力に流されないで必要に応じ自分の意志を強くもったり、学校や関係機関に助けを求めたりすることに躊躇しないなど、周囲の雰囲気や人間関係に流されない態度を育てるようにする。また、社会的な差別や不公正さなどの問題はいまだに多く生起している状況があるため、これらについて考えを巡らせ、社会正義の実現について考え、自覚を深めていく指導を適切に行うことが大切である。
中学校 C-(11)	まず、自己中心的な考え方から脱却して、公の事と自分の事との関わりや社会の中における自分の立場に目を向け、社会をよりよくしていこうとする気持ちを大切にすることが必要である。また、「見て見ぬふりをする」や、「避けて通る」という消極的な立場ではなく、不正を憎み、不正な言動を断固として否定するほどの、たくましい態度が育つように指導することが大切である。 さらに、この世の中から、あらゆる差別や偏見をなくすように努力し、望ましい社会の理想を掲げ、正義が通り、公平で公正な社会の実現に積極的に努めるよう指導する必要がある。 なお、正義の実現を目指す社会の在り方について考えることは、社会科における公民的分野の学習や、特別活動における集団生活の向上についての学習とも関連させ取り組むことが求められる。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 C 小学校「公正、公平、社会正義」 中学校「公正、公平、社会正義」>

	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1		中2		中3	
		教材名	みんないっしょ	大きなフルーツポンチ	みさきさんのえがお	となりのせき	転校生がやってきた	田中正造	席替え	いじめっ子の気持ち	私のせいじゃない	渡良瀬川の鮎毒	無実の罪
指導の要点													
低学年	公正、公平な態度に根差した言動のよさを考えること。	○											
	偏見や差別が背景にある言動については、毅然として是正すること。		○										
	誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるようにすること。	◎	◎										
中学年	不公平な態度が周囲に与える影響を考えること。			○	◎								
	不公平な態度が人間関係や集団生活に支障を来たしいじめなどにつながることを理解すること。				○								
	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接することができるようにすること。			◎	○								
高学年	不正な行為は絶対に行わない、許さないこと。					○							
	周囲の雰囲気や人間関係に流されないこと。					○							
	社会的な差別や不正さなどの問題について考えを巡らせ、社会正義の実現について考え、自覚を深めること。						◎						
中学校	公のことに自分のこととの関わりや社会の中における自分の立場に目を向け、社会をよりよくしていこうとする気持ちを大切にすること。								○	◎		○	○
	不正を憎み、不正な言動を断固として否定すること。							○		○		◎	
	この世の中から、あらゆる差別や偏見をなくすように努力し、望ましい社会の理想を掲げ、正義が通り、公平で公正な社会の実現に積極的に努めること。								◎	◎		◎	○

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「勤労，公共の精神」
中学校「社会参画，公共の精神」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.54,55
(中) p.48,49

発達段階に応じた指導

小学校低学年	働くことのよさを知り，みんなのために働くこと。
小学校中学年	働くことの大切さを知り，進んでみんなのために働くこと。
小学校高学年	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをすること。
中学校	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め，公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(12)	学級の清掃や給食などの当番活動，学級生活の充実に向けた係活動，家庭や地域社会での決められた仕事など，みんなのために役立とうとする意欲や態度に結び付けていくことが求められる。
小学校中学年 C-(13)	特に，身の回りの生活の中で，集団の一員としてできることについて考え，自分ができる仕事を見付けたり，集団生活の向上につながる活動に参加したりして，みんなのために働こうとする意欲や態度を育むことが重要になる。
小学校高学年 C-(14)	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。また，ボランティア活動など，社会への奉仕活動などから得た充実感を基に，勤労と公共の精神の意義を理解し，公共のために役に立とうとする態度を育てることが望まれる。
中学校 C-(12)	<p>まず，学級活動や生徒会活動に積極的に参画するなどの体験を生かして，社会参画や社会連帯についての考えを深めさせ，現実の学校生活に生かすことができるよう公共の精神についての考えを深めさせることが大切である。生徒一人一人に自分も社会の一員であるという自覚を深めるようにして，互いに積極的に協力し合おうとする意欲を育てるように工夫することが必要である。</p> <p>さらに，よりよい社会を実現するためには，社会生活において互いに迷惑をかけることのないような行動の仕方を身に付けるとともに，進んで社会と関わり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる必要がある。そして，進んで社会的な責任を果たすために，どのような行動を取るべきかを主体的に考えられるようにすることが重要になる。また，この内容項目を通じて，例えば，生徒が将来，選挙権を付与される年齢に達した際には，自分も社会の一員であるという認識のもと，積極的に権利を行使するという，主体的に社会に参画し，その発展に寄与する態度を養うという視点も重要である。</p> <p>また，例えば，社会科の公民的分野での社会参画や社会連帯の在り方や公共の精神の学習など，他教科等と関連付けたり，高等学校段階への発展につなげたりすることも必要である。</p>

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 C 小学校「勤労、公共の精神」 中学校「社会参画、公共の精神」>

指導の要点	学年		小3		小4		小5		小6		中1		中2		中3	
	教材名	小1	小2	ごみステーション	教えて！なんでもそうだん室	「もっこ」をせおって	点字メニューにちょうせん	お父さんは救命救急士	わたしのボランティア体験	桜守の話	楽寿号に乗って	本が泣いています	住みよい社会に	今度私の番だ	加山さんの願い	社会からの無言の賞賛を感じる感性
低学年	学校や家庭，地域社会での決められた仕事など，みんなのために役立とうとすること。	◎	◎													
中学年	身の回りの生活の中で，集団の一員としてできることについて考えること。			◎												
	身の回りの生活の中で，自分ができる仕事を見付け，みんなのために働こうとすること。				◎	○										
高学年	集団生活の向上につながる活動に参加し，みんなのために働こうとすること。			◎	○	○	◎									
	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えること。							○			◎					
	社会への奉仕活動などから得た充実感を基に，勤労と公共の精神の意義を理解すること。								◎	◎						
中学校	勤労と公共の精神の意義を理解し，公共のために役に立とうとすること。							◎	○	○	○					
	社会参画や社会連帯についての考えを深め，現実の生活に生かすことができるよう，公共の精神についての考えを深めること。											○	○			
	自分も社会の一員であるという自覚を深め，互いに積極的に協力し合おうとすること。											○			○	○
	社会生活において互いに迷惑をかけることのない行動の仕方を身に付けること。											◎	◎			
中学校	進んで社会と関わり，積極的な生き方を模索しようとする事。										◎			◎	◎	○
	進んで社会的な責任を果たすために，どのような行動を取るべきかを主体的に考えること。										○			○	○	◎

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「勤労、公共の精神」
中学校「勤労」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.54,55
(中) p.50,51

🔍 発達段階に応じた指導

小学校低学年	働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。
小学校中学年	働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
小学校高学年	働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。
中学校	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。

🔍 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(12)	学級の清掃や給食などの当番活動、学級生活の充実に向けた係活動、家庭や地域社会での決められた仕事など、みんなのために役立とうとする意欲や態度に結び付けていくことが求められる。
小学校中学年 C-(13)	特に、身の回りの生活の中で、集団の一員としてできることについて考え、自分ができる仕事を見付けたり、集団生活の向上につながる活動に参加したりして、みんなのために働こうとする意欲や態度を育むことが重要になる。
小学校高学年 C-(14)	勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えさせることが求められる。また、ボランティア活動など、社会への奉仕活動などから得た充実感を基に、勤労と公共の精神の意義を理解し、公共のために役に立とうとする態度を育てることが望まれる。
中学校 C-(13)	まず、勤労の尊さを重んじる生き方を基に、社会における自らの役割や将来の生き方等についてしっかり考えさせることが大切である。保護者や地域の方に外部講師として、働くことの意味や大切さについて語ってもらう機会を設けることも効果的である。 さらに、体験的な学習を生かして、働くことの重要性について理解を深めさせることが重要である。そのためには、キャリア教育と関連させて、職場体験活動やボランティア活動、福祉体験活動などの体験活動を生かすなど指導の工夫が求められる。勤労の尊さや意義についての考えを深めるとともに、働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を育てることが大切である。勤労を通して、社会貢献に伴う喜びが自らの充実感として生徒一人一人に体得され、心から満足でき、生きがいのある人生を実現しようとする意欲にまで高めたい。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 C 小学校「勤労、公共の精神」 中学校「勤労」>

	学年	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1		中2		中3		
		教材名	ぼくの仕事	いま、ぼくにできること	ごみステーション	教えて！なんでもそうだん室	「もっこ」をせおって	点字メニューにちょうせん	お父さんは救命救急士	わたしのボランティア体験	うちの「ネコの手」ボランティア	桜守の話	新しいプライド	「看護する」仕事	宇宙人	我、ここに生きる	たんぼぼ作業所	好きな仕事か安定かなやんてる		
指導の要点	低学年	学校や家庭、地域社会での決められた仕事など、みんなのために役立とうとすること。	◎	◎																
	中学年	身の回りの生活の中で、集団の一員としてできることについて考えること。				◎														
		身の回りの生活の中で、自分ができる仕事を見付け、みんなのために働こうとすること。						◎	○											
		集団生活の向上につながる活動に参加したりして、みんなのために働こうとすること。			◎	○	○	◎												
高学年		勤労が自分のためだけではなく社会生活を支えるものであることを考えること。								○			◎							
		社会への奉仕活動などから得た充実感を基に、勤労と公共の精神の意義を理解すること。										◎	◎							
		勤労と公共の精神の意義を理解し、公共のために役に立とうとすること。								◎	○	○	○							
中学校		勤労の尊さを重んじる生き方を基に、社会における自らの役割や将来の生き方等について考えること。												○		◎	◎		○	
		体験的な学習を生かして、働くことの重要性について理解を深めること。																	○	
		勤労の尊さや意義についての考えを深めること。												◎	○	○				
		働くことについての理解を通して職業についての正しい考え方を身に付けること。														○				◎
	勤労を通して、社会貢献に伴う喜びが自らの充実感として体得され、心から満足でき、生きがいのある人生を実現しようとする。													○	◎		○	◎	○	

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。『指導の要点』と教材関連表をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「家族愛，家庭生活の充実」
中学校「家族愛，家庭生活の充実」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.56,57
(中) p.52,53

発達段階に応じた指導

小学校低学年	父母，祖父母を敬愛し，進んで家の手伝いなどをして，家族の役に立つこと。
小学校中学年	父母，祖父母を敬愛し，家族みんなで協力し合っって楽しい家庭をつくること。
小学校高学年	父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをすること。
中学校	父母，祖父母を敬愛し，家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(13)	家庭生活においては自分にできることを進んで手伝うなどして，積極的に家族と関わり，家族の一員として役に立つ喜びが実感できるようにしていくことが大切である。
小学校中学年 C-(14)	家庭生活において自分の行動が具体的に家族の役に立っていることを実感したり，家族に喜ばれ感謝されるという経験を積み重ねたりすることができるようにすることが必要である。自分が家庭生活におけるかけがえのない家族の一員であることの自覚を深めることによって，協力し合っって楽しい家庭をつくろうとする積極的な姿勢をもつことができるようになる。家庭との連携を図りながら，家族みんなで協力し合っって楽しい家庭をつくろうとする態度を育てるよう指導することが大切である。
小学校高学年 C-(15)	自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して，尊敬や感謝を込めて家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えてみる機会を設定することが求められる。そして，充実した家庭生活を築いていくためには，家族の一員としての自分の役割を自覚し，家族のために，積極的に役立つことができるよう指導することが必要である。そのためにも，家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることについて考えを深められるよう指導することが大切である。
中学校 C-(14)	まず，父母や祖父母を敬愛する気持ちをより一層深めることが大切である。そして，自我意識が強まりつつある中で，家族関係を子供の視点だけでなく，家族のそれぞれの立場になって考えられるよう，多面的・多角的に捉えることができるよう指導することが大切である。 さらに，自分と家族との関わり，家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解し，家族の在り方について考えることも大切なことである。その際，自分が家族の中でどのような立場にあるのか，家庭生活を営む上で，自分はどのような役割を果たせばよいのかを考え，家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくことが，自分の課題であることに気付くことができるようになることが大切である。 また，例えば，技術・家庭科の家庭分野で家族・家庭と子供の成長を学習した後，改めて家庭生活や家族の有様について考えるなど，他教科等と関連した指導も積極的に行っていく必要がある。 なお，指導に当たっては，多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ，一人一人の生徒の実態を把握し十分な配慮を欠かさないようにすることが重要である。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 C 小学校「家族愛，家庭生活の充実」 中学校「家族愛，家庭生活の充実」>

	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
	教材名	かやねずみのおかあさん	だっておにいちゃんだもん	まる子のかぞくへのしつもん	耳の聞こえないお母さんへ ぼくのおばあちゃん	お母さんのせいきゅう書 小さなお父さん	卵焼き おばあちゃんのさがしもの	靴	ごめんね、おばあちゃん	背筋をのばして
低学年	自分にできることを進んで手伝うこと。	◎	○	○						
	積極的に家族と関わり，家族の一員として役に立つ喜びを実感すること。	○	◎	◎						
中学年	家庭生活において自分の行動が具体的に家族の役に立っていることを実感すること。				○	◎		◎		
	家族に喜ばれ感謝されるという経験を積み重ねること。				○	○		○		
	自分が家庭生活におけるかけがえのない家族の一員であることの自覚を深めることによって，協力し合って楽しい家庭をつくろうとする積極的な姿勢をもつこと。				◎	○	◎			
高学年	自分の成長を願って愛情をもって育ててくれた家族に対して，尊敬や感謝を込めて家族の幸せのために自分には何が貢献できるのかを考えること。							◎	○	
	充実した家庭生活を築いていくために，家族の一員としての自分の役割を自覚し，家族のために，積極的に役立つことができるようにすること。								◎	
	家族が相互に深い信頼関係で結ばれていることについて考えを深めること。							○	○	
中学校	父母や祖父母を敬愛する気持ちをより一層深めること。									◎
	家族関係を家族のそれぞれの立場になって考えられるよう，多面的・多角的に捉えること。								◎	○
	自分と家族との関わり，家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを十分に理解し，家族の在り方について考えること。								○	
	自分が家族の中でどのような立場にあるのか，家庭生活を営む上で，自分はどのような役割を果たせばよいのかを考え，家族の一員としての自覚をもって積極的に協力していくこと。									

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態，授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説

内容項目 小学校「よりよい学校生活, 集団生活の充実」(小) p.58,59
中学校「よりよい学校生活, 集団生活の充実」(中) p.54,55

発達段階に応じた指導

小学校低学年	先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。
小学校中学年	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合って楽しい学級や学校をつくること。
小学校高学年	先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。
中学校	教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(14)	児童が教師や友達と一緒に遊んだり学んだりして共に生活する機会を設定して、そのことを通して楽しさを味わい、学校のことをより深く知り、集団の中での行動の仕方を学び、自分の居場所をつくっていけるような指導をすることが望まれる。
小学校中学年 C-(15)	教師をはじめ学級や学校で自分を支え励ましてくれる様々な人々との関わりにおいて感謝と敬愛の念を深め、進んで学級や学校のために働くなど具体的な活動を通して、楽しく充実した学校生活が構築できるように指導していくことが求められる。
小学校高学年 C-(16)	様々な集団での活動を通して、集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付かせると同時に、集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとする態度を育てるよう指導することが大切である。
中学校 C-(15)	<p>まず、生徒は学校や教師などへの関心が十分とは言えない状況の中、学校のよさや校風等を取り上げ、学級や学校の一員であることの自覚を促すことが必要である。生徒の立場に立って考え、共感的で確かな生徒理解に努めることにより人間関係を深めていくことも重要なことである。</p> <p>さらに、自らの所属する集団の目的や意義を理解するとともに、個人の力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなど、集団の在り方について多面的・多角的に考えられるようにすることが大切である。自分が所属する集団にのみ関心を寄せ、自分たちの利益のみを追求し、自分との関わりが薄いと思われる集団や成員に対して無関心になってはいないか省みることも必要である。利己心や狭い仲間意識を克服し、協力し合って、集団生活の向上に努める態度を育てることが重要である。生徒一人一人が集団の中で個性を失うことがないように留意して、それぞれが伸び伸びと自らのよさを発揮できるような集団の在り方を考えられるようにする必要がある。</p> <p>また、例えば、特別活動における学校行事の儀式的行事で学校への所属感を深めた後や、文化・体育的行事において学校や学級での自らの役割や責任を果たした後などに、よりよい校風作りや集団生活の充実について考えるなど、他教科等と関連した指導も積極的に行っていく必要がある。</p>

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 C 小学校「よりよい学校生活, 集団生活の充実」 中学校「よりよい学校生活, 集団生活の充実」>

	学年	小1		小2		小3	小4	小5		小6		中1	中2	中3
		教材名	ようこそ、一ねんせい	もうすぐ二ねんせい	ひかり小学校のじまんはね	「三くみ大すき」	しょうたの手紙	秋空にひびくファンファーレ	かれてしまったヒマワリ	バトンをつなげ	せんばいの心を受けついで	小さな連絡船「ひまわり」	全校一を目指して	四十七年に感謝をこめて
	指導の要点													
低学年	教師や友達と一緒に遊んだり学んだりして共に生活する機会を通して楽しさを味わうこと。	◎	○		◎									
	学校のことをより深く知り、集団の中での行動の仕方を学び、自分の居場所をつくっていくこと。		◎	◎										
中学年	教師をはじめ学級や学校で自分を支え励ましてくれる様々な人々との関わりにおいて感謝と敬愛の念を深めること。						◎							
	進んで学級や学校のために働くなど、活動を通して楽しく充実した学校生活が構築できるようにすること。					◎	○							
高学年	様々な集団での活動を通して、集団を支えているのは自分たち自身であるということに気付くこと。							○	○	◎	○			
	集団における自分の役割を自覚し責任を果たそうとすること。							◎	◎	○	◎			
中学校	学校のよさや校風等に触れ、学級や学校の一員であることを自覚すること。												◎	
	自らの所属する集団の目的や意義を理解すること。											○		◎
	個人力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなど、集団の在り方について多面的・多角的に考えること。													○
	利己心や狭い仲間意識を克服し、協力し合って、集団生活の向上に努めること。												◎	
	それぞれが伸び伸びと自らのよさを発揮できるような集団の在り方を考えること。													

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説

内容項目 小学校「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」(小) p.60,61
中学校「郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度」(中) p.56,57

発達段階に応じた指導

小学校低学年	我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。
小学校中学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，国や郷土を愛する心をもつこと。
小学校高学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつこと。
中学校	郷土の伝統と文化を大切にし，社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め，地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し，進んで郷土の発展に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(15)	児童が住む町の身近な自然や文化などに直接触れる機会を増やしたり，そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで国や郷土への愛着を深め，親しみをもって生活できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C-(16)	地域の人々や生活，伝統，文化に親しみ，それを大切にすることを通して，郷土を愛することについて考えさせ，地域に積極的に関わろうとする態度を育てることが必要である。さらに，自然や文化，スポーツなどへの関心も高まり，郷土から視野を広げて，我が国の伝統と文化について理解を深めるようになる。そこで，様々な活動を通して我が国の伝統と文化に関心をもち，これらに親しむ気持ちを育てるように指導することが必要である。
小学校高学年 C-(17)	機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり，直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。このことを通して，伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し，努めていこうとする心構えを育てる必要がある。
中学校 C-(16)	まず，地域の人々との人間関係を問い直したり，地域社会の実態を把握させたりして，郷土に対する認識を深め，郷土を愛しその発展に努めるよう指導していく必要がある。問題意識をもち，進んで郷土の発展に努めようとする実践意欲と態度を育てることが求められる。 しかしながら，多くの地域で，生徒たちは地域に住む人々との触れ合いや，共に協力して何かを成し遂げるといった機会が少なくなっている状況は否めない。そこでさらに，地域の方に郷土の伝統文化を尊重し郷土を愛する思いを語ってもらうことや，郷土について調べたことや地域の行事への参加体験等に基づいた話合いを通して，郷土に対する認識を深め，郷土を愛しその発展に努めるよう指導していく必要がある。また，地域社会に尽くし，自己の人生を大切に生きてきた先人や高齢者などの先達への尊敬と感謝の気持ちを育むよう指導の工夫に努めることも大切である。

	学年	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1		中2	中3
		教材名	みつけてみよう	ながいながいつうがくろ	ぼくのおべんとう	ふるさといいとこさがし	ふろしき	ふるさとを守った大イチョウ	正月料理	親から子へ、そして孫へ	白神山地	新しい日本に、龍馬の心	ぼくのふるさと	郷土を彫る	祭りの夜	鳥唄の心を伝えたい	
指導の要点																	
低学年	児童の住む町の身近な自然や文化などに触れ、そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで、国や郷土への愛着を深め、親しみをもって生活できるようにすること。	◎	◎														
中学年	地域の人々や生活、伝統、文化に親しみ、それを大切にすることを通して、郷土を愛することについて考え、地域に積極的に関わろうとすること。			◎	◎		◎										
	我が国の伝統と文化に関心を持ち、これらに親しむ気持ちをもつこと。			○		◎											
高学年	我が国の伝統や文化などのよさについて理解を深めること。								◎	○		○					
	伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、努めていこうとすること。									◎	◎	◎					
中学校	問題意識を持ち、進んで郷土の発展に努めようとする事。												◎		○		
	郷土に対する認識を深め、郷土を愛しその発展に努めること。												○	◎	◎	○	
	地域社会に尽くし、自己の人生を大切に生きてきた先人や高齢者などの先達への尊敬と感謝の気持ちをもつこと。													○			◎

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」(小) p.60,61
 中学校「我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度」(中) p.58,59

発達段階に応じた指導

小学校低学年	我が国や郷土の文化と生活に親しみ，愛着をもつこと。
小学校中学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切に，国や郷土を愛する心をもつこと。
小学校高学年	我が国や郷土の伝統と文化を大切に，先人の努力を知り，国や郷土を愛する心をもつこと。
中学校	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに，日本人としての自覚をもって国を愛し，国家及び社会の形成者として，その発展に努めること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(15)	児童が住む町の身近な自然や文化などに直接接触する機会を増やしたり，そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで国や郷土への愛着を深め，親しみをもって生活できるようにすることが大切である。
小学校中学年 C-(16)	地域の人々や生活，伝統，文化に親しみ，それを大切にすることを通して，郷土を愛することについて考えさせ，地域に積極的に関わろうとする態度を育てることが必要である。さらに，自然や文化，スポーツなどへの関心も高まり，郷土から視野を広げて，我が国の伝統と文化について理解を深めるようになる。そこで，様々な活動を通して我が国の伝統と文化に関心をもち，これらに親しむ気持ちを育てるように指導することが必要である。
小学校高学年 C-(17)	機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり，直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。このことを通して，伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し，努めていこうとする心構えを育てる必要がある。
中学校 C-(17)	まず，我が国の発展に尽くし優れた伝統と文化を育んできた先人たちの努力とその精神をたどり，そのよさを理解して継承するとともに，新たな文化を創造してその発展に寄与していく責務があることを自覚し，国家及び社会の形成者として，そのことに努めていこうとする意欲と態度を育てる必要がある。そのためには，人間が既にそうした伝統や文化の中に身を置いて生きており，また身をもってそれらを理解する働きを通して先人たちと対話し，新たな伝統や文化を形成してきたことを踏まえる必要がある。 さらに，次の内容項目の「国際理解，国際貢献」との関わりをも踏まえて，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚に関する内容や，国際社会との関わりについて考えを深めることも求められる。グローバル化や情報通信技術などが進展すればするほど，日本人としての自覚をもつことが大切になってくる。 なお，その際，国を愛することは，偏狭で排他的な自国賛美ではなく，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚と責任をもって，国際貢献に努めようとする態度につながっている点に留意する必要がある。そのためにも，国を愛することと，次の内容項目の「国際理解，国際貢献」とは切り離せない関係にあることに配慮した指導が大切である。

	学年	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1	中2		中3
		教材名	みつけてみよう	ながいながいつうがくろ	ぼくのおべんとう	ふるさといいとこさがし	ふろしき	ふるさとを守った大イチョウ	正月料理	親から子へ、そして孫へと	白神山地	新しい日本に、龍馬の心	古都の雅、菓子的心	心でいただく伝統の味	書道パフォーマンスの挑戦	花火と灯ろう流し	
指導の要点																	
低学年	児童の住む町の身近な自然や文化などに触れ、そこに携わる人々との触れ合いを深めたりすることで、国や郷土への愛着を深め、親しみをもって生活できるようにすること。	◎	◎														
中学年	地域の人々や生活、伝統、文化に親しみ、それを大切にすることを通して、郷土を愛することについて考え、地域に積極的に関わろうとすること。			◎	◎			◎									
	我が国の伝統と文化に関心を持ち、これらに親しむ気持ちをもつこと。			○		◎											
高学年	我が国の伝統や文化などのよさについて理解を深めること。								◎	○		○					
	伝統や文化を育んできた我が国や郷土を受け継ぎ発展させていくべき責務があることを自覚し、努めていこうとすること。										◎	◎	◎				
中学校	我が国の発展に尽くし優れた伝統と文化を育んできた先人の努力とその精神をたどり、そのよさを理解して継承すること。													◎	○	○	◎
	新たな文化を創造してその発展に寄与していく責務があることを自覚し、国家及び社会の形成者として、そのことに努めていこうとすること。														◎	◎	○
	国際社会との関わりについて考えを深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚と責任をもって国際貢献に努めようとする。														○		

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材の関連表」をダウンロードして活用してください。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

内容項目 小学校「国際理解, 国際親善」
中学校「国際理解, 国際貢献」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.62,63
(中) p.60,61

発達段階に応じた指導

小学校低学年	他国の人々や文化に親しむこと。
小学校中学年	他国の人々や文化に親しみ, 関心をもつこと。
小学校高学年	他国の人々や文化について理解し, 日本人としての自覚をもって国際親善に努めること。
中学校	世界の中の日本人としての自覚をもち, 他国を尊重し, 国際的視野に立って, 世界の平和と人類の発展に寄与すること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校 低学年 C-(16)	まず, 身近な出来事や書籍, 衣食住の中にある他国の文化に気付いたり, スポーツや身近な行事などを通じた他国との交流に触れたりしながら, 他国の人々に親しみをもったり, 自分たちと異なる文化のよさに気付いたりできるようにすることが大切である。そして, 他国の人々と交流したり, 文化を味わったりしたことを互いに出し合ったり深めたりしながら, 更に他国を知り, 親しもうとする気持ちが高まるように工夫することが大切である。
小学校 中学年 C-(17)	児童の様々な生活や学習において, 更に関心をもって他国の人々や他国の文化に気付き, 郷土や自国の文化と他国の文化との共通点や相違点などにも目を向けられるようにすることが大切である。その上で, それぞれのよさを感じ取らせることが求められる。また, 他国の人々もそれぞれの文化に愛着をもって生活していることを理解させるなどして, 更に他国の文化に関心や理解を深めさせ, 親しませることが大切である。また, 自国の文化と他国の文化のつながりや関係にも目を向けさせることが大切である。
小学校 高学年 C-(18)	この段階においては, 特に社会的認識能力が発達し, 日常生活において新聞などのマスメディアに接することや社会科, 外国語活動等で学習することによって, 例えば, 我が国と同様, 他国にも国旗や国歌があり, 相互に尊重すべきことなどを知る中で, 他国への関心や理解が一層高まる。また, 様々な学習において, 他国の芸術や文化, 他国の人々と接する機会も出てくる。 指導に当たっては, そのことを踏まえ, 様々な文化やそれに関わる事柄を互いに関連付けながら国際理解を深め, 国際親善に努めようとする態度を育てることが重要である。その際, 他国の人々が, 我が国と同じようにそれぞれの国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることについて一層理解が進むようにすることが大切である。また, 日本人としての自覚や誇り, 我が国の伝統と文化を理解し, 尊重する態度を深めつつ, 自分のできることを考えるなどして, 進んで他国の人々とつながり, 交流活動を進めたりより親しくしたりしようとする国際親善の態度を養うことが求められる。
中学校 C-(18)	まず, 他国には日本と同じように, その国の伝統に裏打ちされたよさがあることや, 例えば, 我が国と同様, 他国にも国旗や国歌があり, 相互に尊重すべきことなどを学習する中で, その国独自の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることなどを理解させることが大切である。その際, 伝統や文化は, 人間としての共通の願いから形成されてきているという理解に立って, 他国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念が重視されなければならない。その上で, 様々な文化のもつ多様性の尊重や価値観の異なる他者との共生などについても考えを深める必要がある。今後ますますグローバルな相互依存関係の中で生きていく中学生にとって, 広く世界の諸情勢に目を向け, 国際社会で生きる能力を身に付けることはこれまで以上に必要となる。そうした社会の変化に能動的に対応できるとともに, 国際社会において自らの役割と責任を果たすことができる日本人となることが求められる。 さらに, 世界の平和と人類の発展に貢献するという理想を抱き, その理想の実現に努めることが大切である。その理想の実現のための基本になるのは, 国によってものの感じ方や考え方, 生活習慣などが違って, どの国の人々も同じ人間として尊重し合い, 差別や偏見をもたずに公正, 公平に接するということであり, このことは, 日本人だけに求められるものではない道徳的価値である。 なお, 宗教が社会で果たしている役割や宗教に関する寛容の態度などに関しては, 教育基本法第15条の規定を踏まえた配慮を行うとともに, 宗教について理解を深めることが, 自ら人間としての生き方について考えを深めることになるという意義を十分考慮して指導に当たることが必要である。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 C 小学校「国際理解, 国際親善」 中学校「国際理解, 国際貢献」>

	学年	教材名											
		小1	小2	小3	小4	小5		小6		中1	中2	中3	
指導の要点		ぼくとシャオミン	ひろいせかいのたくさんの人たちと	三つの国	世界の小学生	「折り紙大使」〜加瀬三郎	同じ空の下で	白旗の少女	エンザロ村のかまど	日本から来たおばさん	六千人の命のピザ	その子の世界、私の世界／そのこ	命見つめて
低学年	他国の人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化のよさに気付いたりすること。	◎	○										
	他国を知り、親しもうとする気持ちをもつこと。	○	◎										
中学年	他国の人々や他国の文化に気付き、郷土や自国の文化と他国の文化との共通点や相違点などに目を向けること。			◎									
	他国の人々もそれぞれの文化に愛着をもって生活していることを理解すること。				◎								
	他国の文化に関心や理解を深め、親しむこと。				○								
	自国の文化と他国の文化のつながりや関係に目を向けること。			○									
高学年	様々な文化やそれに関わる事柄を互いに関連付けながら国際理解を深め、国際親善に努めようとする事。					○		◎	○				
	それぞれの国の伝統と文化に愛着や誇りをもって生きていることについて理解すること。						◎		○				
	日本人としての自覚や誇り、我が国の伝統と文化を理解し、尊重すること。					◎		○					
	進んで他国の人々とつながり、交流活動を進めたりより親しくしたりしようとする事。					○	○		◎				
中学校	その国独自の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解すること。									◎			○
	様々な文化のもつ多様性の尊重や価値観の異なる他者との共生などについて考えを深めること。									○		○	◎
	社会の変化に能動的に対応し、国際社会において自らの役割と責任を果たそうとする事。									○	○	◎	
	国によってももの感じ方や考え方、生活習慣などが違っても、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、差別や偏見をもたずに公正、公平に接すること。											◎	

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.64,65
(中) p.62,63

内容項目 小学校「生命の尊さ」
中学校「生命の尊さ」

発達段階に応じた指導

小学校低学年	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。
小学校中学年	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
小学校高学年	生命が多く生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
中学校	生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(17)	この段階においては、生命の尊さを知的に理解するというより、日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心になる。例えば、「体にはぬくもりがあり、心臓の鼓動が規則的に続いている」「夜はぐっすり眠り、朝は元気に起きられる」「おいしく朝食が食べられる」「学校に来てみんなと楽しく学習や生活ができる」などが考えられる。 指導に当たっては、これらの当たり前のことで見過ごしがちな「生きている証」を実感させたい。また、自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いや、自分の生命に対して愛情をもって育ててきた家族の思いに気付くなど、自分の生命そのものかけがえのなさに気付くようにすることが大切である。そのことを喜び、すばらしいことと感ずることによって、生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。
小学校中学年 C-(18)	生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育てられている尊いものであることについて考えたり、与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。あわせて、自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする心情や態度を育てることが求められる。
小学校高学年 C-(19)	家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。
中学校 C-(19)	まず、人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが重要な課題となる。例えば、それぞれの生命体が唯一無二の存在であること、しかもそれらは全て生きているということにおいて共通であるということ、自分が今ここにいることの不思議(偶然性)、生命にいつか終わりがあること、その消滅は不可逆的で取り返しがつかないこと(有限性)、生命はずっとつながっているとともに関わり合っていること(連続性)、生命体の組織や生命維持の仕組みの不思議などを手掛かりに改めて考えさせることができる。そうした学習を通して、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせることが大切である。 さらに、理科や保健体育、技術・家庭などの他教科等での学習も踏まえつつ、生命倫理に関わる現代的な課題を取り上げ、話し合い、多様な考えを交流することにより、生命とは何か、その尊さを守るためにはどのように考えていったらよいかなど、生命尊重への学びをより深めることもできる。 この内容項目は、道徳科の内容全体に関わる項目であり、他の内容項目の指導においても、生命尊重に関連する事項を扱う場合には、この内容項目との関連を意識した指導に留意したい。また、教育活動全体の取組を通じて、自己肯定感や自己有用感の高まりから、生徒一人一人の自尊感情を高めることにもつながるような指導の工夫も大切である。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 D 小学校「生命の尊さ」 中学校「生命の尊さ」>

	学年	教材名																										
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3																		
指導の要点		ハムスターのあかちゃん	いのがあつてよかった	たんじょう日	ぼく	ゆきひょうのライナ	ヌチヌグスージ(いこのちのまつり)	おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね	わたしの見つけた小さな幸せ	バルバオの木	走れ江ノ電光の中へ	おばあちゃんが残したものの	コースチャぼうやを救え	クマのあたりまえ	命の重さはみな同じ	お母さんへの手紙	東京大空襲の中で	いのちって何だろう	決断！骨髄バンク移植第一号	見沼に降る星	奇跡の一週間	妹に	書かれなかった遺書	生まれてきてくれて、ありがとう	くちびるに歌をもて	たとえぼくに明日はなくなるとも		
低学年	日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取り、「生きている証」を実感すること。	○	○	○	◎	○																						
	自分の誕生を心待ちにしていた家族の思いに気付くこと。				◎																							
	自分の生命に対して愛情をもって育ててきた家族の思いに気付くこと。			○	○																							
	自分の生命そのものかけがえのなさに気付くこと。		◎	◎	○	◎																						
生命の大切さを自覚すること。	◎				○	○																						
中学年	生命は唯一無二であることについて考えること。						○	◎			○																	
	生命は自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育てられている尊いものであることについて考えること。						◎	◎		○																		
	与えられた生命を一生懸命生きることのすばらしさについて考えること。						○	○	◎	○	◎																	
	自分と同様に生命あるもの全てを尊いものとして大切にしようとする。							○		◎																		
高学年	家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさから生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重すること。												○			◎												
	生命の誕生から死に至るまでの過程から生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重すること。												○															
	人間の誕生の喜びや死の重さから生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重すること。												◎	○														
	限りある生命を懸命に生きることの尊さから生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重すること。												○		○													
	生きることの意義を追い求める高尚さから生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重すること。													◎		○	○											
	生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さから生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重すること。													◎	◎	◎												
中学校	人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせること。																				◎	○	○					
	生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつこと。																			◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	
	自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けること。																			◎	○		◎		○	○	◎	

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

内容項目 小学校「自然愛護」
中学校「自然愛護」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.66,67
(中) p.64,65

○ 発達段階に応じた指導

小学校低学年	身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接すること。
小学校中学年	自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。
小学校高学年	自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。
中学校	自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。

○ 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(18)	<p>この段階においては、特に身近な自然の中で楽しく遊んだり、自然と親しんだりする活動を行うことが多い。また、生活科の学習などを通して動物の世話や飼育をしたり、植物の栽培や観察などを根気よく丁寧に行ったりしながら、自然や動植物などと直接触れ合う多くの体験をしている。</p> <p>指導に当たっては、児童のこうした活動や体験を通して、自然に親しみ動植物に優しく接しようとする心情を育てることが求められる。自然や動植物のもつ不思議さ、生命の力、そして、共に生きていることのいとおしさなどを自然や動植物と触れ合うことを通して実際に感じることによって、自然や動植物を大事に守り育てようとする気持ちが強く育まれる。</p>
小学校中学年 C-(19)	<p>自然に親しみながら自然のもつ美しさやすばらしさを感じ得るようにする必要がある。それらを踏まえて、身近なところから少しずつ自分たちなりにできることを、動植物と自然環境との関わりを考え実行しようとする意欲を高めることも大切である。</p>
小学校高学年 C-(20)	<p>自然環境と人間との関わりから、人間の生活を豊かにすることを優先し、十分な思慮や節度を欠いて自然と接してきたことに気付かせたい。その上で、人間も自然の中で生かされていることを自分の体験を基に考えられるようにすることが必要である。人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境を大切に、持続可能な社会の実現に努めようとする態度を育むことが望まれる。</p>
中学校 C-(20)	<p>まず、例えば、すばらしい自然風景・絶景との出会いを振り返り、そこでの感動や不思議に思ったことなどの体験を生かして、人間と自然との関わりを多面的・多角的に捉え、自然を愛し、守ることといった環境の保全を通して、有限な人間の力を越えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる。</p> <p>さらに、高等学校段階への発展を踏まえて、自然を美の対象としてだけではなく、畏敬の対象として捉えさせることが大切である。その際、阪神・淡路大震災、東日本大震災などの災害の事実の理解から自然に対する人間の有限性を考えさせるなど、事実や事象の知的な理解を基にしながら、自然の中で生かされていることを謙虚に受け止める感性を高めることに留意する必要がある。そのことが、自然を外から制御する者となって保護するという自然への対し方ではなく、一人一人が自然との心のつながりを見だし同行する者として生きようとする自然への対し方につながり、持続可能な開発目標(SDGs)のための教育でも求められる、現在及び未来の自然環境の課題に取り組むために必要な心を育てることになる。</p>

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 D 小学校「自然愛護」 中学校「自然愛護」>

	学年	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1	中2	中3
		教材名	ぼくのあさがお	ぼくのしろくま	げんきにそだて、ミニトマト	まいごになった赤ちゃんくじら	ツバメの赤ちゃん	ホタルの引っこし	また来年も待ってるよ	「ふれあいの森」で	一ふみ十年	イルカの海を守ろう	愛華さんからのメッセージ	タマゾン川	サクラに集う人の思い	冬の使者「マガン」
指導の要点																
低学年	自然に親しみ動植物に優しく接しようとする事。	○	◎	○	○											
	自然や動植物を大事に守り育てようとする事。	◎	○	◎	◎											
中学年	自然のもつ美しさやすばらしさを感じ得るようにすること。						○	○	○							
	身近なところから自分たちにできることを、動植物と自然環境との関わりを考え実行しようとする事。					◎	◎	○	◎							
高学年	自然環境と人間との関わりから、人間の生活を豊かにすることを優先し、十分な思慮や節度を欠いて自然と接してきたことに気付くこと。									○			◎			
	人間も自然の中で生かされていることを自分の体験を基に考えること。											○				
	人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考えること。										◎		○			
中学校	自分にできる範囲で自然環境を大切に、持続可能な社会の実現に努めようとする事。									○	○	◎	○			
	人間と自然との関わりを多面的・多角的に捉え、自然を愛し、守ることといった環境の保全を通して、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止めること。													◎	◎	◎
	自然を美の対象としてだけでなく、畏敬の対象として捉えること。													○		

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

内容項目 小学校「感動、畏敬の念」
中学校「感動、畏敬の念」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.68,69
(中) p.66,67

Q 発達段階に応じた指導

小学校低学年	美しいものに触れ、すがすがしい心をもつこと。
小学校中学年	美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
小学校高学年	美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。
中学校	美しいものや気高いものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。

Q 小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年 C-(19)	児童が美しいものに触れて心が揺さぶられたときには、その思いを教師が大切にするとともに、児童の感動を他の児童にも共有できるように働きかけることで、児童自身も持っている初々しい感性を豊かに育てていくことが考えられる。
小学校中学年 C-(20)	感性や知性が著しく発達する段階であることに配慮して、児童が自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心をもっている自分に気づき、その心を大切に、更に深めていこうとする気持ちを高めるようにすることが重要である。
小学校高学年 C-(21)	文学作品、絵画や造形作品などの美術、壮大な音楽など美しいものとの関わりを通して、感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりすることで、人間としての在り方をより深いところから見つめ直すことができるようにすることが大切である。
中学校 C-(21)	まず、例えば、体験活動等における、自然の織りなす美しい風景や優れた芸術作品等の美しいものとの出会いを振り返り、そこでの感動や畏敬の念、不思議に思ったことなどの体験を生かして、人間と自然、あるいは美しいものとの関わりを多面的・多角的に捉えさせることが大切である。畏敬は、非日常的な体験を通して初めて自覚されることが多い。例えば、小さな子供が遊びの中で昆虫の命を奪ってしまったときに感じる恐ろしさや、その子供が同時に抱く命への尊敬の気持ちなど、これまでの経験を想起させ、生命の尊さの内容と関連させながら畏敬の念について話し合わせることで、抽象的な言葉による理解ではなく、人間理解に基づいて畏敬の念について深く考えることができる。 さらに、心の奥深さや清らかさを描いた文学作品等の気高いものとの出会いを振り返り、有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止める心を育てることが求められる。こうした指導を通して豊かな心を育てることが、人間としての成長をより確かなものにつなげるのである。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目 D 小学校「感動、畏敬の念」 中学校「感動、畏敬の念」>

	学年	小1		小2		小3		小4		小5		小6		中1	中2	中3
		教材名	にじがでた	七つのほし	ガラスの中のお月さま	百羽のツル	しあわせの王子	一びきのセミに「ありがとう」	花さき山	ひさの星	一本松は語った	夜空く光の旅	青の洞門	火の島	夜は人間以外のものの時間	ハッチを開けて、知らない世界へ
指導の要点																
低学年	感動を他の児童と共有すること。	◎	○	○												
	初々しい感性を豊かに育むこと。	○	◎	◎												
中学年	自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心をもっている自分に気付くこと。				◎	○	◎	○								
	自然の美しさや人の心の気高さなどを感じ取る心を大切に、更に深めていこうとする気持ちを高めること。				○	◎	○	◎								
高学年	美しいものとの関わりを通して、感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりすること。									○	◎	◎	○			
	感動したり尊敬や畏敬の念を深めたりすることで、人間としての在り方をより深いところから見つめ直すこと。									◎	○		◎			
中学校	人間と自然、あるいは美しいものとの関わりを多面的・多角的に捉えること。														◎	○
	抽象的な言葉による理解ではなく、人間理解に基づいて畏敬の念について深く考えること。													○	○	◎
	有限な人間の力を超えたものを謙虚に受け止めること。													◎		

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。『「指導の要点」と教材関連表』をダウンロードして活用してください。

D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

内容項目 小学校「よりよく生きる喜び」
中学校「よりよく生きる喜び」

小・中学校学習指導要領
(平成29年告示)解説
(小) p.70,71
(中) p.68,69

発達段階に応じた指導

小学校高学年	よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し，人間として生きる喜びを感じる。
中学校	人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し，人間として生きることの喜びを見いだすこと。

小学校・中学校学習指導要領解説 (2)指導の要点の一部抜粋

	指導に当たって
小学校低学年	
小学校中学年	
小学校高学年 C-(22)	まず自分だけが弱いのではないということや，人間がもつ強さ，気高さについて自分自身を振り返ることで理解できるようにすることが大切である。人間の弱さだけを強調したり，弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく，目指す生き方，誇りある生き方に近付けるということが大切である。このように，人間の強さや気高さを理解させることで，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方につなげるようにすることが求められる。
中学校 C-(22)	まず，自分だけが弱いのではないということに気付かせることが大切である。弱さや醜さだけを強調したり，弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく，自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする必要がある。 さらに，人間がもつ強さや気高さについて十分に理解できるようにすることが大切である。先人の気高い生き方などから，内なる自分に恥じない，誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことができるようになる。生徒が，自分の弱さを強さに，醜さを気高さに変えられるという確かな自信をもち自己肯定でき，よりよく生きる喜びを見いだせるような指導が求められる。

「指導の要点」と教材関連表 <内容項目D 小学校「よりよく生きる喜び」 中学校「よりよく生きる喜び」>

	学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1		中2		中3	
	教材名					そういうものにわたしはなりたくい宮沢賢治	義足の聖火ランナーくクリス・ムーン	銀色のシャープペンシル	花に寄せて	本当の私	良心とのたたかい	背番号15が歩んだ道―黒田博樹―	足袋の季節
指導の要点													
低学年													
中学年													
高学年	自分だけが弱いのではないことや、人間がもつ強さ、気高さについて理解すること。					○	◎						
	人間の強さや気高さを理解することで、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方につなげようとする。					◎	○						
中学校	自分だけが弱いのではないことに気付くこと。							◎		○			○
	自分を奮い立たせることで目指す生き方や誇りある生き方に近づけるということに目を向けること。							○		◎	◎	○	◎
	人間がもつ強さや気高さについて十分に理解すること。								◎		○		○
	先人の気高い生き方などから、内なる自分に恥じない、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすこと。									○			◎

(例) ◎・・・その教材で重点的に扱うことができる指導の要点 ○・・・その教材で扱うことができる指導の要点

※児童生徒や学校の実態、授業者の意図により自校化できます。「『指導の要点』と教材関連表」をダウンロードして活用してください。